

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

尹 熙倉「水辺景 - みずべにけい」 Yoon Heechang: At the Water's Edge



[左]
《Sand River テムズ川 #1115》
焼成したテムズ川の砂、陶粉、他
116 x 116 cm
2016年

[右]
《Sand River 淀川 #1535》
焼成した淀川の砂、陶粉、他
227.3 x 181.8 cm
2020年

アートコートギャラリーでは尹 熙倉展「水辺景 - みずべにけい」を開催します。

尹 熙倉が慎重に作品を配した空間に身を置き、それを読み解くために、観者は心を開きつつ、身構える。

何に身構えるのか。スペースに閉じ込められた鋭利な感性に気づくためか。

砂を描画材とする尹の絵画は、波一つ立てぬ静寂をまとう。個性を隠した白い陶立体は屋内から中庭へ続き、空間を深くする。

尹は矩形の陶を作る美術家である。それを空間に静かに置く。そして焼成した砂を描画材とする絵画を制作する。

尹は水辺を歩く。未踏の景を歩く。その行為は、即ち、尹が陶粉画と呼ぶ絵画のコンセプトを体現するためであり、描画材料となる砂を入手するためでもある。

本展出品作での砂の採取地は、遠くはイギリスのテムズ川であり、日本では京都の鴨川や瀬戸内海、尹の故郷にある兵庫県の揖保川であり、そして当廊正面を流れる大川（旧淀川）である。大川を遡ると、やがて三川に分かれる。尹はそれらの源流まで歩き砂を採取する。それは学術的な試験のプロセスを踏むように篩^{ふるい}にかけられ、分別され、幾種もの温度で焼成され、乳鉢で擦り潰され、陶粉となる。微妙な色合いが現れるのは言うまでもなく、尹の絵画のための唯一無二の顔料となる。水辺を無心に歩くことから始まる尹の制作は、最終プロセスまで慎重にすすめられるが、筆を下ろしたあとは躊躇なく一気呵成に描きあげることが肝要となる。通常の絵具ではない。塗り直し、描き直しはきかない。

昨夏にパナソニック汐留美術館で開催された「ピクチャレスク陶芸 アートを楽しむやきもの - 「民藝」から現代まで」に出品の折、尹は手作り画材であり、顔料の役目をする焼成され、均一な粉状にされた各地の砂を小袋に入れ、採取地を記し、色見本帖のように並べて作品とともに展示した。作品だけでなく、作家の行為の記録が展示され、それは作品同様に思索を喚起するものであった。作家の「水辺を歩く、砂を採取する、陶粉にする」行為が象^{しょう}を結んでいた。

本展では、絵画約10点、陶立体約10点とともに、焼成された12ヶ所のテムズ川の砂、6ヶ所の淀川の砂を展示します。

【展覧会概要】

展覧会タイトル：尹 熙倉「水辺景 - みずべにけい」

Yoon Heechang: At the Water's Edge

会 期：2026年10月31日[土] - 12月5日[土] *日月祝休廊

会 場：アートコートギャラリー

開廊時間：11:00-18:00[土曜日17:00まで]

主催：アートコートギャラリー（株式会社八木アートマネジメント）

協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

◆ 関連イベント

10月31日 [土]

14:00-15:30 | 対談 [米田 晴子(姫路市立美術館 学芸員) x 尹 熙倉]

15:30-17:00 | レセプション

*予約制（先着20名様）ご予約はメールまたは電話にて承ります。

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当：灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL: 06-6354-5444 FAX: 06-6354-5449 E-mail: info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -



◆ 作家ステイトメント

「水辺景 - みずべにけい」

大川の流^{ほとり}れの辺に景を作る。

ギャラリーの展示室は、中庭を囲んで回廊のように連なる。
この部屋の移動の歩みに応じて、床や壁や壁際に陶立体を配し陶粉画と並べる。
空間を感じながら見え隠れするように。視覚と体感と。

中庭を囲む部屋の連なりに加え、陶立体、陶粉画の流れで三つの積層を設える。
それぞれに独立し、それぞれと交わる。
その重なりに何が見えるか。

借景の大川の水面の煌めきが室内から垣間見えるとき、
作品を見ている此処が中庭と繋がって、さらに何処かの川へと広やかに膨らんで流れ出し、未踏の景をあるく。
そんな妄想をする。

尹 熙倉

* 大川は旧淀川本流でアートコートギャラリーの前を流れる



《Sand River テムズ川 #1110》
焼成したテムズ川の砂、陶粉、他
58 x 49 cm
2016年



《Sand River セーナ川 #1416》
焼成したセーナ川の砂、陶粉、他
163 x 130 cm
2019年



《Sand River 瀬戸内 #2110》
焼成した瀬戸内海の砂、陶粉、他
37 x 30 cm
2026年

◆ 尹 熙倉 Yoon Heechang



1963 兵庫県生まれ
 1986 東京造形大学造形学部デザイン学科卒業
 1988 多摩美術大学大学院美術研究科修了
 1993 滋賀県立陶芸の森に招聘作家として1ヶ月滞在制作
 1995 文化庁芸術家在外研修制度によりイギリスに1年間滞在
 1997 イギリス レスタシャー ラフバラー大学及びレンガ工場で3ヶ月滞在制作
 2010 文化庁新進芸術家海外研修制度の特別研修によりイギリスに80日間滞在。大英博物館にて調査・研究
 多摩美術大学美術学部工芸学科教授

｜主な個展｜

2024 「正方形の」ギャラリーキャプション、岐阜
 2022 「ACG Villa Kyoto Vol. 10 尹熙倉 ～蒼々茫々～」ACG Villa Kyoto、京都
 2018 「Sand River Work 砂の流れ - 鴨川 京都」現代美術 舂居／舂居アネックス、京都
 2017 「尹熙倉の陶粉画『Sand River Works - Setouchi』」多摩美術大学八王子校舎工芸棟ギャラリー、東京
 2012 「『ある』の風景」ギャラリー小柳、東京
 2011 「四角の話」かみ添、京都
 2009 「はざかい」ギャラリーキャプション、岐阜
 2005 ガレリア・アピターレ、東京
 2002 「そこに在るもの」ギャラリー小柳、東京
 「じぶんの土」世界のタイル博物館、愛知
 2000 「何か」ギャラリー小柳、東京
 2001 「瀬戸・常滑の土による陶粉画」名古屋画廊、愛知
 なるせ美術座、東京
 1997 「そこに在るもの」静岡県立美術館
 1993 「そこに在るもの」ギャラリーキャプション、岐阜
 1992 ギャラリーNWハウス、東京
 「トボス・エトノス」かわさきIBM市民文化ギャラリー、神奈川
 双ギャラリー、東京 ['91]
 ギャラリーフロアー2、東京
 1991 ギャラリーなつか、東京
 1990 なびす画廊、東京
 小原流会館、東京
 1988 ギャラリー伝、東京
 かねこ・あーとG1、東京
 1987 村松画廊、東京



瀬戸内にて

｜主なグループ展｜

2025 「ピクチャレスク陶芸」パナソニック汐留美術館、東京
 2020 「ところざわ アートの潮流」所沢市文化センター、埼玉
 2017 「単色のリズム 韓国の抽象」東京オペラシティアートギャラリー
 2016 「人が大地と出会うとき」愛知県陶磁美術館
 2013 「龍野アートプロジェクト2013 - 刻の記憶」ガレリアアーツ&ティー、兵庫
 「Moving: Norman Foster on Art」カレ・ダール - 現代美術館、ニーム、フランス
 2011 「新・陶・宣言」豊田市美術館、愛知
 2009 「余白の美」静岡県立美術館
 2007 「土から生まれるもの」東京オペラシティアートギャラリー
 2006 「素景」資生堂ギャラリー、東京
 2005 「第3回京畿道国際陶磁ビエンナーレ」世界陶芸センター、利川、韓国
 「アルス・ノーヴァ - 現代美術と工芸のはざまに」東京都現代美術館
 2002 「エモーショナル・サイト」食糧ビルディング、東京
 「第4回光州ビエンナーレ THERE: site of the Korean Diaspora」光州、韓国
 1995 「還流」愛知県美術館／名古屋市美術館、愛知
 「やわらかく 重く」埼玉県立近代美術館
 1994 「素材の領分」東京国立近代美術館工芸館
 「21世紀・的・空間」セゾン美術館、東京 ['93 長野]
 1993 「ヨコハマ現代美術展」ポート・コミッションギャラリー、サンディエゴ
 1991 「セラミック・アネックス・シガラキ '91」滋賀県立近代美術館／信楽伝統産業会館、滋賀
 1990 「土の造形」栃木県立美術館
 1989 「第9回ハラアニュアル」原美術館、東京



焼成したテムズ川の砂からの絵の具の色味

｜主なコレクション、作品設置｜

茨城県陶芸美術館
 東京オペラシティ アートギャラリー 寺田コレクション
 旅客船「guntū」、瀬戸内